

雄勝 OH ガッツ通信 15号

寺岡記念病院 藤原 恵

【これまでの活動】

2011年3月24日、広島県医師会の派遣したJMAT第一陣で、宮城県石巻市雄勝町を訪問。それ以来、雄勝町の復興支援を続けている。その活動内容を、県医師会速報へ投稿。2011年11月より、「雄勝 OH ガッツ通信」と名前を変え、津波で人口の8割以上が流出した雄勝町の復興の現状をレポートしている。震災後、3年目に入り、より本格的な復興支援をするために、2013年8月、「雄勝町の復興を応援する福山の会」を立ち上げ、被災地の抱える少子高齢化、過疎、医療崩壊、産業衰退などの課題を共有化し、それを解決しようとする被災地の取り組みをともに応援することを訴えている。

① 初めに

このゴールデンウィークを利用して、5月4日から6日の日程で雄勝を訪問してきました。今回の「雄勝ツアー」での活動内容の紹介を中心に、報告したいと思います。このツアーに参加したのは5名で、全員、「雄勝町の復興を応援する福山の会」のメンバーです。昨年春のツアーに、松永ロータリークラブとして参加された松永地区医師会の藤井益男先生夫妻が今回も参加されました。また、20歳代の女性が初参加されました。各々の感想も交えて、報告していきたいと思っています。

1) 津波シェルターを雄勝町に展示する計画の進捗状況、2) 現地で新しく開始された「語り部・防災教育」のプログラムの体験、3) 元水浜仮設住宅の住民との交流会、について報告します。



高橋哲郎さんの自宅建設現場での記念写真

② 津波シェルターを7月に雄勝町に展示する計画を推進中

14号で紹介した「津波シェルター」は、尾道市のツネイシクラフト&ファシリティーズが開発したもので、基本的に、国の強度試験を合格し、5月の認可を待つ段階となっています。現在、国内で国の強度検査をパスした津波シェルターはほかに2社あって、どれも、救命艇製造などの専門技術を持った造船会社だそうです。民間には、強度検査を受けていない「シェルター」が数多くあるそうですが、ツネイシクラフト&ファシリティーズの神原潤社長は、「国の強度検査をパスする」ということに、強い思いをもっておられます。

「今回の震災で亡くならなくてもいい命がたくさん失われたのではと感じています。そのことを美談として片付けてはいけません。もっと、国が国民の命と安全に対して責任を持つべきではないのか。その責任をはっきりさせるものとして、シェルターを開発してきました。国の検査をパスするということが、国民の命を守る選択肢として、津波シェルターがあるということ、国に正式に認めさせることができる。そうすれば、今後の街づくりにおいても、高台移転以外の選択肢が現実的になるのではないかと。これまでのコミュニティーを尊重して、海岸の近くに生活することも可能になるかもしれないと思っています」と、震災後、自ら被災地を回って実感されたことを話されています。

今回、5月4日、雄勝訪問初日に、雄勝町味噌作で、NPOやボランティアの力を借りて、流出した自宅の自力再建を目指している高橋哲郎さ

んの建設現場を訪問しました。この場所は、釜谷トンネルから雄勝町へ入る人が全員通過するところです。「雄勝花物語」の「お花畑」のちょうど対面に位置する格好の場所です。

高橋さんは、自分の保有す裏の山林から木をきりだして、木造の自宅を建設中です。この建設の支援をしている「まち・コミュニケーション」の宮定章さんの紹介で、高橋さんとお会いすることができました。「このシェルターを展示し、多くの方に見学していただき、いろいろな改良点や、また被災地の復興にどのように活用できるのか等々の意見を出してもらいたい。それを吸い上げ、会社にもフィードバックし、被災地復興の応援をしたい」というお話をさせていただき、自宅の前に展示することについて快諾を得ました。

連休後の5月9日には、ツネイシクラフト&ファシリティーズの本社に伺い、雄勝での話し合いの経過を報告し、「7月21日の海の日あたりに、展示できるように準備していきましょう」ということで、計画を進めております。

今後、シェルターを雄勝町まで輸送し、展示をしていくための費用が50万円から100万円程度必要と考えています。これから、多くの方へ協力を呼びかけていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

③ 「雄勝花物語」の「語り部・防災教育」プログラムの体験報告

5月5日は、午前10時から12時まで、一般社団法人(非営利型)「雄勝花物語」の「語り部・防災教育」プログラムを体験しました。

「雄勝花物語」は、3.11の巨大津波で壊滅した石巻市雄勝町を「花と緑の力」で復興するために、被災した住民が立ち上げた復興プロジェクトです。物語のはじまりは、2011年8月に代表の徳水利枝さんが津波にさらわれた母親や叔母・従弟の霊を弔うために、瓦礫に埋もれた雄勝町味噌作の実家跡地に花を植え始めたことです。それが契機となり、多くの方々の支援により、瓦礫の中に530坪のお花畑が誕生し、多くの被災者の心を癒してくれています。こうした活動を継続、発展させていく中で、2014年法人化して、一般社団法人(非営利型)「雄勝花物語」が生まれました。事業内容としては、「支援部門」(被災地緑化支援・被災者支援)、「教育部門」(防災教育・ボランティア活動の受け入れ、雄勝環境教育センターの活動)、「事業部門」(体

験教室&セミナー)に分かれています。

こうした活動を通じて、人口が激減した雄勝町を持続可能な魅力ある新しい町に創り変え、UターンやIターンした若者が雄勝に定住し、新しい復興の担い手になることを支えることを目標としています。

今回は、「雄勝花物語」の「教育部門」の「語り部・防災教育」プログラムを体験しました。

このプログラムを作成し、自らも語り部として、案内していただいたのは、徳水博志さんです。震災当時、屋上を超える津波に襲われた雄勝小学校の教員をされていました。その小学校跡地で体験談をお聞きしました。「防災マニュアルはあり、それでは近くの山の神社が避難場所でした。それに基づいた訓練もしていたのですが、震災当時、最初の避難場所は校庭でした。ちょうど通りかかった父兄から、マニュアル通りに山へ逃げろと言われ、それを聞いた校長の判断で、全員山へ逃げて間一髪で助かりました。そこで得られる教訓は、トッパー一人の判断に任せるのではなく、情報を共有し、一人ひとりが判断し、責任を持てる組織にしていかななくてはならないということです」と語られたのは大変印象的でした。また、「自らの震災の体験に基づくだけではなく、科学的な知見も取り入れて、防災対策をしていくことが重要である」ということも強調されておられました。その後、近くで商店をされていた女性の方と、震災当時中学生で、現在高校生の方のお話を聞きました。どちらも、山へ逃げてから、空腹と寒さをしのぐために、避難場所のクリーンセンターまでたどり着くのがいかに大変であったのかを語られ、「震災後の数日をどう乗り切るのか」という視点も大切であることを強調されていました。

その後で、堀込智之氏の「津波防災の講義」を受けました。この堀込氏は、石巻市長面という、海岸から100mのところに住まわれていましたが、震災では10mを超える津波に襲われ、妻と子供2人で近くのお寺に逃げ、さらに裏山に逃げ込んで間一髪で助かったそうです。堀込氏は長年、宮城県内の高校で物理の先生をされており、定年後は「波のしくみと津波」をテーマに小中学校で、実験教室を開催されていました。工学博士であり、波の専門家であった堀込氏は、避難生活のめどが立つと、すぐに、津波災害の科学的調査、分析に乗り出し、地形によって津波の動きがどう変化したのか、なぜ想像以上の高さに達したのか、どの地域で犠牲者が多くでたのかについて、調査、研究を進められ、奥さん

の被災の体験談とともに「海に沈んだ故郷」という本を書かれています。

今回は、「雄勝花物語」の防災教育のプログラムの一環として、堀込氏の講義がありました。津波実験装置を使って、地形によってどのようなメカニズムで津波が変化するのか、平野部の津波とV字谷の津波の特徴はどう違うのかについて、分かりやすく目の前で再現し、「自分たちが、今住んでいる土地に地形の特徴を正しくとらえて、防災対策に役立てる」ことの重要性を訴えられました。

この講義の中で、「海岸沿いの地区の犠牲者が想像以上に少ない反面、海岸から一番遠い、これまでほとんど津波の被害を受けたことがない地域に犠牲者が集中している」という現地調査のデータが提示された時、一番大きなショックを受けました。

今回のツアーに参加した者全員、心のどこかで、「南海トラフで地震があっても、四国があるから、大丈夫ではないか」という気持ちを持っていましたが、「その気持ち」そのものが一番の敵であるということが明らかにされました。

特に、潮待ちで有名な鞆の浦をもつ福山は、「瀬戸内海の東西から入ってくる津波がちょうどぶつかる中間点であり、津波の高さが2倍になることはないのか」という質問をしましたが、その解答の中で、その可能性があることを実例を挙げて示唆されました。また、地震の震源地についても、瀬戸内海の中にある断層が震源となる可能性があること、それにより津波が惹起される可能性もあることも明らかになりました。

今回のツアーで特に感じたのは、これまでの「被災地支援」という側面が主要に見えていた段階から、「震災から学ぶ…防災対策やまちづくりを学ぶ」という側面が前面にでる段階へ移行してきているということでした。



津波により3時30分で止まった時計を持って説明する徳水博志さん

これまでの被災地支援は継続しながらも、自分たちの防災対策や町づくりのために、被災地から真剣に学ぶこと、そのために被災地ツアーを継続していくことが大変重要であることを実感しています。

「雄勝町の復興を応援する福山の会」として、10月の連休を利用して、「被災地ツアー」を企画していく予定ですので、ぜひ、関心のある方はご参加ください。

④ 水浜仮設の住人との交流会の報告

5月5日の午後1時から、水浜から2つ隣の浜である波板地区に建設されたばかりの「集会所」を借りて、交流会を開催しました。この交流会には20名近い、元水浜仮設の住人が参加されました。この交流会の前に、現在水浜地区で行われている高台造成地を見てきました。特に、元水浜仮設住宅の跡地は、元来水浜小学校があった場所で、いまずぐに住宅建設を開始することが可能な状態でした。その上にある造成地も基本的な工事は終了していましたが、交流会でお話を聞くと、この1ヵ月以上工事がストップしており、その理由については説明されていないとのことでした。縦割り行政の中で、「基本となる道路が確定しないので、その先の工事が進んでいない」というような噂もありましたが、真偽のほどは不明でした。

こうした中で、住民の中には、「高台移転後」を見据えて、どう生きていくのかを考えざるを得ない状況が生まれてきています。10年先、20年先をどうするのかという問題でもあります。

そうすると、支援のもつ意味合いも変わってきています。当面の生活を支援するという側面も依然大切なのですが、「若者が働き、住み着いていく」町づくりの展望をいかに前面に押し出



波板集会所での、元水浜仮設の住人との交流会

して支援をしていけるかも、重要になってきています。

震災直後から、「オーガッツ」や「SWEET TREAT311」が目指していた「日本の復興のモデルとなる町づくり」がよりリアル感をもって受け止められていく局面に入ってきています。今雄勝には、こうしたコンセプトを共有できる「雄勝花物語」や「雄アイランド構想協議会」などの多くの組織が生まれてきています。このようなさまざまな団体の協働関係を編み上げてい

く中で、復興へ向かう大きな流れを創出していく必要があります。

「雄勝町の復興を応援する福山の会」は、震災直後から掲げ続けてきた「雄勝復興」の理念のもとに、さまざまな協働関係を創出していく役割を果たしていきたいと考えています。

「雄勝町を日本の復興モデルに」を実現していく活動を、「雄勝町の復興を応援する福山の会」のface bookを通じて発信していきますので、ぜひ応援をよろしくお願いいたします。

災害に備えた準備や心構え

広島県医師会

日頃の心構え

【家について】

- 身の周り、家の周りの危険性を確認
- 落下・転倒防止対策
- 火災防止対策
- 家の中の安全チェック
- お風呂に水をためる
- 出入り口付近に転倒、落下の危険性のあるものは置かない

【家族と一緒に普段からしておくよいこと】

- 地域の危険箇所を把握
- 避難場所、避難経路を決めておく
- 応急手当の方法を確認
- 家族がはなればなれになったときの連絡方法を決める
- 地域の防災訓練に参加
- 日頃から隣近所とコミュニケーションをとる

家具は金具や転倒防止具で固定し、重い物は動かさないようにしましょう。

防災工場のカーゴラックに避難用品を収納しましょう。

つり電灯はワイヤー等で固定しましょう。

ガラスには防割防止フィルムを貼って避難しましょう。

家具と壁や柱の間に隙間を確保し、地震時に倒れやすくなるようなものを撤去しましょう。

テレビが揺れから落下しないように転倒防止具で固定しましょう。

冷暖房管理用機器は倒れやすいように転倒防止具で固定しましょう。

備えておくもの

☆必要なものをチェックしてください
また、不足は付け加えてください

<p>貴重品</p> <p>現金 預金通帳 印鑑 権利証 保険証 など</p>	<p>あかり・火</p> <p>懐中電灯 ろうそく ろうそく立て マッチ ライター</p> <p>懐電、懐 ガスコンロ等 火をおこせるもの など</p>	<p>赤ちゃんのために</p> <p>ミルク スプーン・おはし 母乳固 おむつ ちり紙 めん棒 母子手帳 看護用品 など</p>	<p>その他</p> <p>携帯電話・充電器 メモ帳・ボールペン はさみ ひも ガムテープ ビニール袋 ビニールシート ラップ ポリ袋(大容量のもの) カナヅチ、くぎ、のこぎり など</p>
<p>飲料水</p> <p>ポリタンク 船舶ホップ 水筒・ホット ※大人一人 3リットル目安です</p>	<p>情報</p> <p>ラジオ 電池 など</p>	<p>身につけるもの</p> <p>衣類(トレーニングウェア等) 下着類 作業用手袋(厚手) 靴・長靴・靴下 ハンカチ タオル・バスタオル 帽子・防災ずきん ヘルメット・防塵マスク 雨具(カッパ、かさ) めがね(必要の人) など</p>	<p>＜ぐすり＞</p> <p>救急セット 包帯・救急絆創膏 消毒液 清涼散 胃腸薬 など</p>

記入欄(付け加えるもの)

参考資料: 広島県防災Web「もしものときに」、広島市「防災べりね」

分娩機関の新設をご予定の先生へ

「産科医療補償制度」加入手続きのご案内

「産科医療補償制度」へのご加入につきましては、下記「産科医療補償制度お問合せ窓口」宛にご連絡下さい。お電話をいただき次第、加入手続き類をお送りいたします。

＜産科医療補償制度お問合せ窓口＞

TEL 03-5800-2231 (午前9時～午後5時、土日祝日除く)

(財)日本医療機能評価機構 (本制度運営組織)